



北海道浦河高等学校の防災教育 ～地域に根ざした防災・減災を目指して～



北海道浦河高等学校 キャリアガイダンス部長
教諭 佐藤 友洋

1 はじめに

北海道浦河高等学校は、創立 87 年を迎える地域の伝統校です。平成 24 年に隣町にあった北海道様似高等学校と再編統合され、キャリア教育を重視する総合学科となりました。本校の立地する日高東部地方は、平成 15 年十勝沖地震、平成 23 年東日本大震災と大規模な地震災害の被災地であり、平成 24 年には隣町様似町で竜巻が発生するなど災害に見舞われることの多い地域です。

このことを踏まえて、本校では校訓を基礎としたスクール・アイデンティティ【Self-help Mutual-help (自助・共助)】を策定しています。自助＝自らを支える資質・能力＝校訓「自主」「努力」の一つの在り方、共助＝他を支え

たり、他と協調する資質・能力＝校訓「敬愛」の一つの在り方という位置付けです。

これらの地域的特性やスクール・アイデンティティに基づき、キャリア教育の観点から災害発生時に地域の防災・減災を担う人材の育成が、地域の学校である本校において、重要であると考え防災教育に取り組んでいます。

2 取組の内容

本校の防災教育は、大きく分けて防災と減災の二本立てに整理されています。また、外部機関との連携の充実、学びを行動（アクション）にするという点が特徴です。防災は、災害に関する知識を得て、「今」できることは何かをコンセプトに、減災については「発災中・発災後（その時）」の行動を中心に据えて授業

Urakawa is in danger of natural disasters!!

Urakawa, our hometown, has a lot of features such as beautiful views, fresh food, and kind people.

However, it also has risks of natural disasters.

One of them is tsunamis.

Do you know how long tsunamis would take to reach our town?

The answer is only **4 minutes!**

And it is said that its speed is **36 km/h,** which even an Olympic athlete can't outrun.

Moreover, there are many elderly people, disabled people, and foreigners in our town.

Elderly people	1979
Disabled people	995
Foreign people	229

They are called disaster vulnerable because they have difficulty evacuating on their own, and need help from others.

Thus, Urakawa faces some problems in regards to disaster prevention.

Then, how can we evacuate from tsunamis?

Is your preparation good enough?

What matters for disaster prevention is preparation beforehand!

You may imagine stocks of water or pre-packaged food when you hear the word disaster prevention.

However! Are they really enough?

You never know when an earthquake will occur.

It does not always happen when you are with your family.

Would you like to check evacuation routes in order to evacuate safely?

Hazard map in Urakawa

Keep in mind these points!

- ① Don't use cars because roads may be crowded
- ② Higher places are safer than farther places.
- ③ Don't return to your home! Your life is most precious!
- ④ Prepare call out to your neighbors in advance
- ⑤ Prepare wheel chairs

To evacuate quickly even in the middle of the night
You should put evacuation goods into your bag, and put it beside your pillow.

Do you know DAISY?

DAISY is a Digital Accessible Information System that can play recordings through letters, images, and sounds.

It informs disaster vulnerable of evacuation routes through sound and sight, so they can understand them clearly without confusion.

災害弱者向けリーフレット（英語版）

が展開されています。

防災「今」できること

本校における防災教育「今」できることは、主として正しい知識を得ることを中心に実施されています。学校設定科目「地域研究」では、室蘭地方気象台・日高東部消防組合より講師を招き、地震（津波）・風水害などについての知識を得るとともに「災害発生時の思考シミュレーショントレーニング」、日高東部消防組合署員からは「災害図上訓練（D I G）」を実施することで発災前にできることを学んでいます。

また、「世界津波の日」高校生島サミットへの参加（3年連続出場）での取組では、精神障がい者の避難方法などについて学ぶことで、災害弱者（高齢者、障がい者、外国人移住者など）への学びを深め、地域の災害弱者の避難方法についてリーフレット（日本語版、英語版）を作成し、町内で配布するなどの活動を行っています。

減災「そのとき」どうする

災害発生の際に「そのとき」に被害をどう減らすか（減災）。あるいは被災後にどう行動するべきかについては、北海道シェイクアウトへの参加、日高振興局地域政策課防災担当職員の協力のもと北海道版避難所運営ゲーム「D o HUG」の実施、宿泊研修でのハイゼックスによる炊飯訓練、総合的な学習の

時間（課題研究）で避難方法や防災グッズの研究などを行っています。なかでも北海道という地理的特性に鑑み寒冷地に合わせた避難所運営ゲームは、職員も含めた研修を実施しており、全校体制で防災・減災に取り組んでいます。

総合的な学習の時間（課題研究）では、地域の防災・減災をテーマに地元幼稚園での避難訓練に参加させてもらい、地震発生時にどうするべきかを高校生が実演指導しました。また、本校生徒作成の防災カードを地元の小学校へ配布するなど、行動（アクション）をともなった活動を展開し、地域住民の防災意識向上に取り組んでいます。

3 最後に

本校のこれらの取組を通じて、卒業生の中には町役場での採用試験時に町の防災についてプレゼンテーションをすることで採用され、実際に防災担当職員や消防署員として活躍する者もいます。また、福祉施設などで勤務する卒業生からも、高校での学びが利用者の避難訓練に活かされているとの声が聞かれ、本校の目指すキャリア教育の充実と地域の防災・減災というコンセプトは一定の成果となって表れていると考えています。今後も防災に関わる地域人材の育成に全校的に取り組み、地域になくてはならない存在として、地域と一体化した防災・減災対策に取り組んで参りたいと思います。



避難所運営ゲーム



幼稚園での指導